

WEEKLY SIGNAL

平成30年7月20日(金) 1433号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	7/23 (月)	7/24 (火)	7/25 (水)	7/26 (木)	7/27 (金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	+ 500	トシ	トシ	△ 1,000	△ 1,000
財政他	+ 1,900	+ 3,000	+ 6,000	+ 2,000	△ 2,000
資金需給	+ 2,400	+ 3,000	+ 6,000	+ 1,000	△ 3,000
主な要因	国庫短期証券 発行・償還(3M)		国債発行(40年)		
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,300 CP等買入 △ 300 社債等買入 △ 100 国債補充供給 + 300				
オペスタート	共通担保(全店) + 1,300 ETF買入 + 100		社債等買入 + 1,000		
(日本)		スーパーマーケット売上高(前年比)(6月) 景気先行CI指数(5月、改定値) 景気一致指数(5月、改定値) 東京地区百貨店売上高(前年比)(6月) 全国百貨店売上高(前年比)(6月)		企業向けサービス価格指数(前年比)(6月)	消費者物価指数(東京都都区部、7月)
(海外)	米 中古住宅販売件数(6月) ユーロ圏 消費者信頼感指数 (7月、速報値)	米 FHFA住宅価格指数(5月) ユーロ圏 製造業・サービス業・総合PMI (7月、速報値)	米 米欧首脳会談(ワシントン) 米 新築住宅販売件数(6月) ユーロ圏 マネーサプライ(6月)	米 耐久財受注(6月) 米 新規失業保険申請件数 (21日終了週) ユーロ圏 ECB金融政策会合・記者会見	米 GDP(4-6月、速報値) 米 シガン大学消費者マインド指数 (7月、確定値)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.050 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.050 ~ 0.040
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.050
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、386兆8,000億円から始まった。その後は、国庫短期証券・国債買入オペを主因に18日には388兆6,400億円まで増加したが、財政等要因から週末には387兆8,500億円となった。

無担保コールON物の加重平均金利は、新積み期に入りビットサイドが慎重な調達姿勢となり、週を通して△0.072%で推移した。ターム物は1~2W物を中心に、主に△0.05%台での取引がみられた。20日、総務省が公表した消費者物価指数(全国・平成30年6月分)によると、全国CPI(生鮮食品を除く総合)は、前年同月比+0.8%となり、上昇幅は5月(0.7%)から拡大した。

来週は国内では、消費者物価指数(東京都都区部7月)(27日)、海外では、ECB金融政策会合・記者会見(26日)、米GDP(4-6月、速報)(27日)などが予定されている。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.000
TDB 3M	△0.170 ~ △0.130
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<C P>

今週の入札発行総額は約7,900億円で、週間償還総額の約4,500億円から増加した。発行市場は、連日商社・鉄鋼・輸送等の複数の業態から大型案件が散見され、活況となった。週末の発行市場残高は18兆5,000億円強となり、事業法人の旺盛な資金需要が残高を押し上げる動きとなった。発行レートは、投資家の運用ニーズが強く、概ねマイナス~0%近辺の出合であった。

来週の償還総額は、2,600億円程度となっている。25日発行や月末の前倒し発行が見込まれるため、大幅な発行増が予想される。発行レートは、ディーラーや投資家の運用ニーズが強く、変わらずマイナス~0%近辺の出合であろう。26日に、CP等買入オペが2,000億円オファーされる予定である。

<TDB>

19日に行われた1Y771回債は、最高落札レート△0.1420%(前回債△0.1268%)、平均落札レート△0.1440%(同△0.1298%)と前回債より堅調な結果。20日に行われた3M772回債も最高落札レート△0.1523%(前回債△0.1398%)、平均落札レート△0.1579%(同△0.1455%)と前回債からマイナス幅を拡大した。

セカンダリー市場では、入札水準から大きく地合は変わらず、新発3Mが△0.16~△0.154%、1Yが△0.148~△0.145%の出合であった。

<レポ>

銘柄先決めGCは週初△0.11~△0.105%から始まり、以降レートが低下する展開。20日受渡しでは、△0.14~△0.13%の出合も見られた。週末は短国3Mの発行もあり、△0.11%近辺の水準で越週した。SC取引では10年350回債と5年135回債のbidが多く、10年350回債は週前半△0.10%台半ば、19日の国債買入オペ後は△0.20%近辺の出合が見られた。5年135回債は△0.30%近辺~△0.20%台前半で多く取引された。他2年386・387・388・389・390回債、5年133・134・135・136回債、10年338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350・351回債、20年162・163・164・165回債、30年57・58・59回債、40年9・10・11回債などに引合が多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。